

## 《平成 12 年度上半期浮魚中長期漁海況予報》

平成 12 年 3 月に、東シナ海から日本海にかけての対馬暖流域における主要浮魚類（マアジ、マサバ、マイワシ、カタクチワシ、ウルメイワシ）の長期漁況予報会議が開かれました。今月はこれをもとに、平成 12 年度前期（4 月～9 月）の中長期的な漁況の予測をします。

### マアジ春～夏漁に期待！

大中小型まき網による東シナ海から日本海南西海域におけるマアジ漁獲量（図 1）は、昭和 55 年以降増加傾向にありましたが、平成 7 年に大きく減少しています。平成 8、9 年はやや持ち直したものの、その後は再び減少傾向にあります。平成 11 年 10 月～平成 12 年 2 月までの東シナ海を主漁場とする大中小型まき網の漁獲量

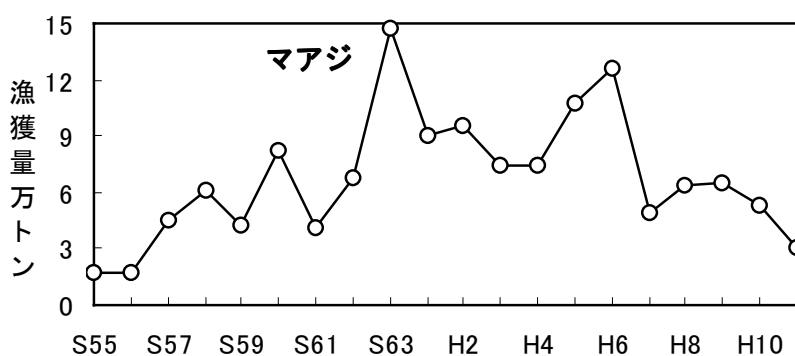


図1 大中小型まき網による東シナ海～日本海西部におけるマアジ漁獲量

（10,000 トン）は、前年同期（8,000 トン）をやや上回っています。漁獲物の銘柄は、ゼンゴ（1 歳魚）が 5 割を占めていました。また、九州～山陰までの沿岸域における昨年秋以降の漁獲量は、海域によって差はあるものの概ね前年並みとなっています。

今期の島根県沖のマアジ漁獲量は、東シナ海での当歳魚の加入状況がそれほど悪くないことから、春から夏にかけての漁は不漁だった前年を上回るのではないかと考えています。

### マサバは期待薄？！

島根県～青森県にかけてのマサバ漁獲量（図 2）は、平成 6 年以降、減少傾向にあります。

一方、対馬暖流系群の主分布域である東シナ海での大中小型まき網による平成 11 年 10 月～平成 12 年 2 月までのマサバ漁獲量は、例年漁場となっている済州島西沖での漁場形成が見られなかったことから、前年同期の 61%と、

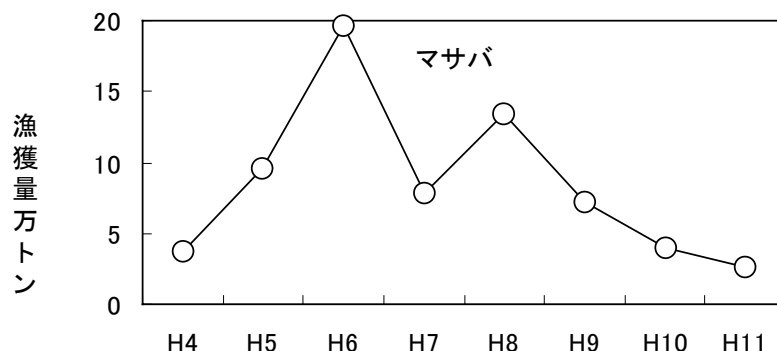


図2 島根～青森までのマサバ漁獲量の変動

不漁であった前年をさらに下回りました。漁獲物の銘柄組成は当歳魚の割合が前年同期に比べ大幅に減少したことから、今期の島根県沖での漁獲は前年、平年を下回ると考えています。

### マイワシ資源依然低迷！

島根県～青森県までのマイワシ漁獲量(図3)は、平成5年以降減少傾向でしたが、平成11年は前年に比べやや増加しています。海域によってはまとまって漁獲されることもありましたが、広範囲に漁場が形成されることはありませんでした。また平成12年3月に、西海区水産研究所が実施した九州南西海域における卵稚仔調査の結果、マイワシの卵、仔魚の出現がほとんど見られなかったことから、依然としてマイワシ資源は低水準にあると思われます。

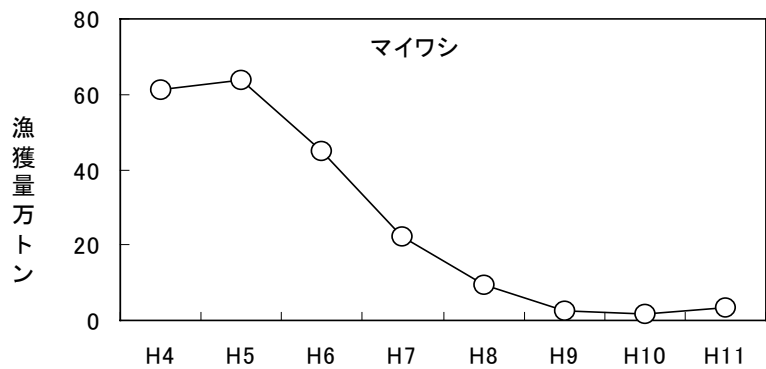


図3 島根～青森までのマイワシ漁獲量の変動

### カタクチイワシ資源良好！

島根県から青森県までのカタクチイワシの漁獲量(図4)は近年増加傾向にあります。また、平成12年3月に西海区水産研究所が実施した九州南西海域における卵稚仔調査の結果、卵・仔魚の出現密度は前年同期を下回ったものの、依然として高い水準にあり、資源の加入状況は良好であると考えられます。島根県沖の漁獲時期は冬期にピークが見られることから、冬期を中心として活発な漁場が形成されるのではないかと期待しています。

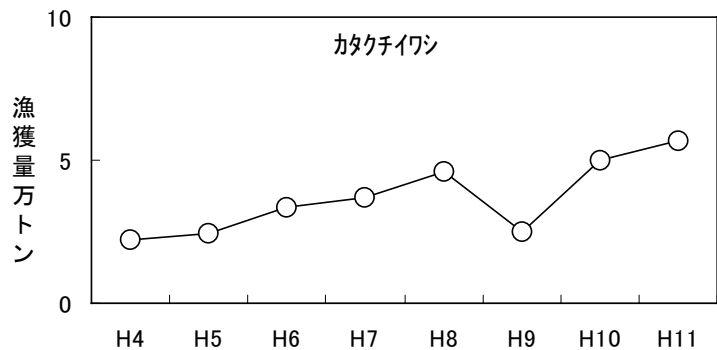


図4 島根～青森までのカタクチイワシ漁獲量の変動

### ウルメイワシ資源低水準！

島根県から青森県のウルメイワシの漁獲量(図5)は近年低水準にあります。対馬暖流域での主な漁場は、山陰～九州西岸域で、1999年の漁獲量は平年・前年を下回っており、資源水準としては低水準にあります。今後の島根県沖での漁模様ですが、主漁期は夏から秋にかけてで、前年並みの漁があると考えています。

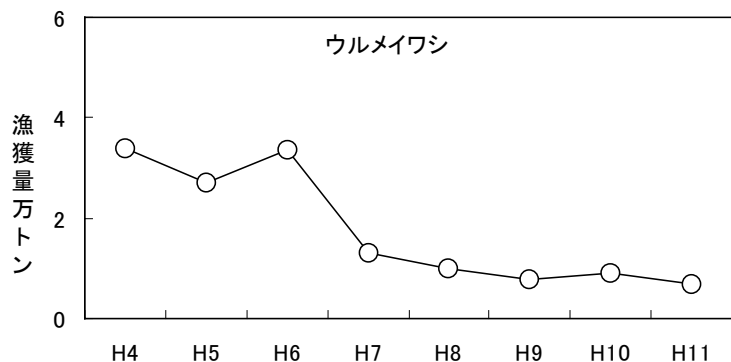
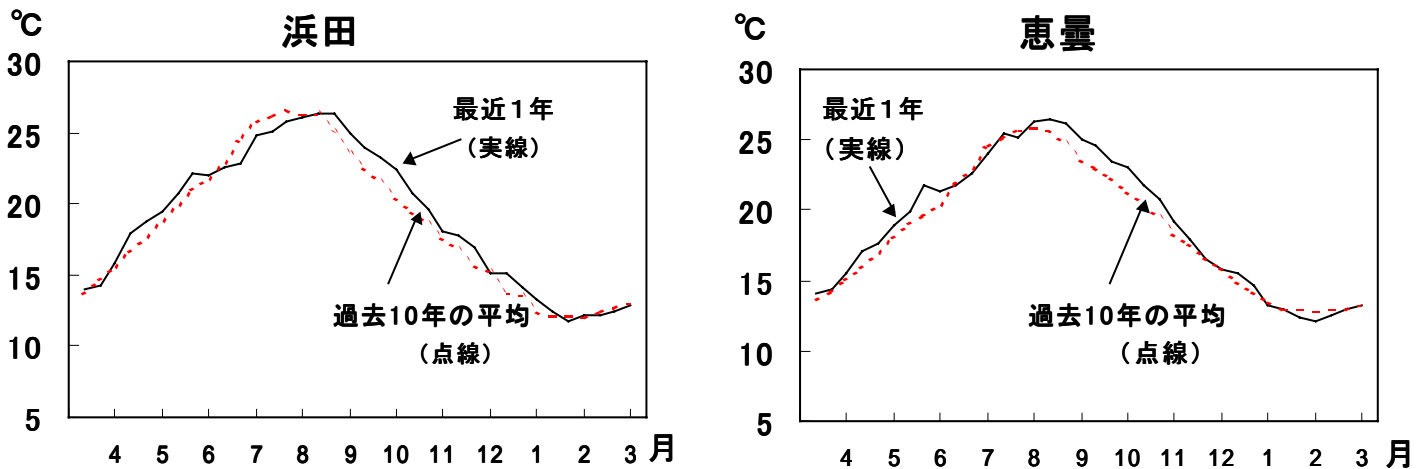


図5 島根～青森までのウルメイワシ漁獲量の変動

## 《 3月の海況 》



定地水温

3月	月平均	平年差	評価
浜田	12.4	-0.3	やや低め
恵曇	12.5	-0.2	やや低め

3月の月平均水温は2月に比べ浜田で0.3 上昇し、恵曇では変化がありませんでした。浜田、恵曇とも、平年に比べ「やや低め」の水温経過となりました。

## 《 3月の漁況 》

### 【中型まき網漁業】

浜田港の中型まき網の総漁獲量は2,464 トンで、前年の77%、平年の38%と、低調に推移しました。水揚金額は9,400 万円（前年比：70%）でこちらもやや低調に推移しました。漁獲の主体はマサバ、カタクチイワシ、マアジでした。また、恵曇ではカタクチイワシを主体に1,312 トン（前年比：116%）の漁獲がありましたが、水揚金額は3,150 万円（前年比：70%）で低調に推移しました。浦郷でもカタクチイワシ主体に2,341 トン（前年比：114%）の漁獲があり、水揚金額は9,030 万円（前年比：103%）とほぼ前年並みとなりました。

### 【イカ釣り漁業】

浜田港に水揚する地元小型イカ釣り船によるイカ類の漁獲量は、スルメイカを中心に0.7 トンあり、前年の28%と非常に低調に推移しました。浜田市漁協以外の小型イカ釣り船では、スルメイカを中心に114.6 トンの漁獲（前年比：108%）がありました。また、西郷港における沿岸の小型イカ釣りによる漁獲量はスルメイカを中心に21.1 トンで、前年の63%と低調に推移しました。

### 【沖合底びき網漁業】

浜田港の総漁獲量は378 トン、水揚金額は1 億6,761 万円でした。また1 統当たり漁獲量は63 トン、水揚金額は2,793 万円で、量は平年並みでしたが、金額は平年を上回っています。魚種別にみると、ヤナギムシガレイ、マダイ、アカムツ（メッキン）が好調に推移し、平年の2.6～4.9 倍の漁獲がありました。

恵曇港の総漁獲量は137 トン（平年比：13%減）、水揚金額は6,760 万円（平年比：34%減）で、量・金額とも平年を下回っています。アカガレイは全漁獲物の4 割を占めていますが、平年の7 割程度の水揚げでした。ヤナギムシガレイ、アンコウ、ケンサキイカが平年の2.5～3.5 倍の漁獲がありました。

### 【小型底びき網漁業】

和江漁協における総漁獲量は312トン、水揚金額は1億3,170万円で前年をわずかに下回っています。これは出漁日数が前年より13%減少したためであり、1日1隻当たりの量・金額は前年を13%上回っています。

大田市漁協における総漁獲量は148トン、水揚金額は7,225万円で、量・金額とも前年を下回っています。1日1隻当たりの漁獲量は前年をわずかに下回っていますが、水揚金額は単価の高いケンサキイカの割合が増加したことから前年を15%上回っています。

### 【定置網漁業】

隠岐地区では前月号で予想したように引き続きスルメイカが大量に漁獲されており、量、金額とも昨年および一昨年同期を大幅に上回っています。県東部ではスルメイカの漁獲量は減少しましたが、ヤリイカが比較的好調で、金額的には前月および昨年同月を大幅に上回っています。県西部ではブリの漁獲量が増加し、金額、量とも昨年、一昨年同期を大きく上回っています。

### 【釣・縄】

前月に引き続きブリ類とマダイが漁獲の主体となっていますが、漁獲量は伸び悩んでおり、昨年および一昨年を大幅に下回る低調な漁模様でした。浜田はブリ、アマダイ、マダイ、ヤリイカが主体で量、金額とも前月は上回ったものの昨年、一昨年の5割から7割の漁となっています。五十猛はマダイとカサゴ・メバル類主体で、量、金額とも前月並で昨年、一昨年の5割から7割の漁となっています。

### 漁獲統計

平成12年3月1日～31日

漁業種類	水揚港	延隻数・統数	主要魚種	1隻(統)1航海当漁獲量	総漁獲量
中型まき網	浜田	50	カタクチイワシ・マサバ・マアジ	49.3ト	2,464ト
	恵曇	44	カタクチイワシ	29.8ト	1,312ト
	浦郷	60	カタクチイワシ	39ト	2,341ト
イカ釣り	浜田(沖合)	174	スルメイカ	655Kg	114.6ト
	浜田(沿岸)	3	スルメイカ	233Kg	0.7ト
	西郷	176	スルメイカ	119.9kg	21.1ト
沖合底びき網	浜田	31	ソウハチ・ケンサキイカ	12.2ト	377.6ト
	恵曇	32	アカガレイ	4.3ト	136.9ト
小型底びき網	和江	416	ソウハチ	749kg	311.7ト
	大田市	229	ソウハチ	646kg	148.0ト
定置網	浜田	23	ブリ・ヤリイカ	535kg	12.3ト
	恵曇	19	ヤリイカ・スルメイカ・マアジ	221kg	4.2ト
	浦郷	26	スルメイカ	4,117kg	107.1ト
釣・縄	浜田	877	ブリ・アマダイ・マダイ・ヤリイカ	13.6kg	11.9ト
	五十猛	326	マダイ・カサゴ・メバル類	15.4kg	5.0ト

1隻(統)1航海当漁獲量は総漁獲量 / 延隻数・統数で算出しており四捨五入した値です。